

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.31

ドキュメンテーション



ノート PC の返却に集まった卒業生の皆さん

ドキュメンテーション学科 16 期生の卒業を祝して

16期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！

学生生活の4年間は、いかがでしたでしょうか？ みなさんは、入学1年後に新型コロナウイルスによるパンデミックを経験しました。徐々に増えていく専門選択科目を受講するにあたり、全てがオンラインになってしまったことで、学生生活のリズムを大きく狂わされてしまったのは事実だと思います。全世界が意気消沈しましたが、振り返れば、新しい社会様式に慣れ、適応することができたからこそ、今のみなさんがいます。人間は、こういった様々な災厄からも学び、改善する能力を持っています。

現代は、VUCA（ブーカ）の時代と言われています。VUCAというのは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとった造語です。定番で決まりきったことをこなせば良い社会ではなくなっています。そんな時、何が頼りになるのかというと、自分しかありません。みなさんは、そのために多くの課題に取り組んできたと思い

ます。今までの学生生活で得た知識やスキル、姿勢・気持ちを大いに活かして、このVUCAの時代の荒波を乗り切ってください。

"Where there's a will, there's a way." という諺があります。「意思があるところに、道は拓ける」みなさんが、意志を持ち続ければ、必ず道は拓けます。

夢を持って、ドキュメンテーション学科に入学してきた人がたくさんいると思います。その時の夢は、人によっては叶わなかったかもしれません。ですが、VUCAの時代、その時その時の状況を見極めて、臨機応変に対応するということが十分だと思います。そのための準備は、このドキュメンテーション学科での4年間で培うことができました。そして、次は、一人で歩くことです。行つてらっしゃい！ また、お会いしましょう。

ドキュメンテーション学科 元木 章博



2022 年度 卒業論文題目

角田裕之研究室

- 有泉 歩実 コロナ禍における公共図書館の非接触サービスについての研究
- 飯島 美琴 図書館における掲示物に対する認識に関する研究
- 植田 悠希 マスコットキャラクターが図書館の広報活動にもたらす効果に関する考察
- 荻野 菜々 図書館におけるバーチャルツアーの活用に関する考察
- 久手堅陽菜 公共図書館におけるベストセラー本の貸し出しが売り上げに与える影響に関する研究
- 虎岩いずみ 書籍の表紙デザインによる購買効果と購買心理の考察
- 見真地一希 図書館のコンテンツを活用した健康増進と地域活性を目的とした企業活動の提案
- 望月 貴光 非来館者にも対応した企画展示と利用者には有効な広報活動
- 盛 倖多 鶴見大学図書館の展示における利用者の関心に関する研究

河西由美子研究室

- 青木 杏樹 読書通帳による子供の読書推進に関する研究
- 及川 直輝 東日本大震災の被災地県立図書館における震災展示に関する研究
- 岡崎 杏梨 アメリカ・コミックスにおける正義に関する研究
- 箴島 彩恵 音楽大学図書館の OPAC に関する比較研究
- 坂本 葵 自閉症スペクトラム障害への理解を促す絵本の作成に関する研究
- 崎濱 瞳子 子ども読書推進活動における理科読に関する研究
- 原 龍也 戦後公共図書館における児童サービスの歴史に関する研究
- 松尾悠之介 神奈川県内の公立図書館における日本語を母国語としない住民に対するサービスに関する研究
- 山下 昭斗 学習障害児支援のためのブックリストの作成に関する研究

伊倉史人研究室

- 伊藤 愛李 「狂歌百物語」研究 一小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話との関係について
- 小幡 美葉 渋川版御伽草子と明治以降の御伽噺の比較 ～一寸法師を中心に～
- 窪田 偉籍 千葉県内の移動図書館について
- 小池 佑佳 『歌林良材集』の版種の研究
- 芝 柚希 「居初つな」の往来物の考
- 杉塚 友裕 料理物語と料理秘伝抄の研究 ～版種と本文について～
- 中谷 文哉 本屋村上平楽寺に関する考察
- 深澤 菜月 『解体新書』の現存諸本の研究 一序図の序文・自序の位置による分類一
- 水落 夏希 『辰巳婦言』の版種に関する研究
- 村上 英紀 漫画化された古典文学作品の研究 一原作と解釈の違いについて一
- 渡辺絵理果 『扱茂其後白髪公時』の成立に関する研究と翻刻紹介

元木章博研究室

- 上原ひなた 視覚障害者を対象とした 3D プリンターで印刷した立体模型に対する評価
- 高坂 祐介 日本の大学における Minecraft を用いた授業のシラバス分析
- 後藤 大祐 公立図書館の障害者向け Web 資料と OPAC の検索項目の調査
- 布施 柊佳 視覚障害者が利用する触地図の経路情報に関する 3D プリンターと立体コピー機の比較評価
- 光田 裕貴 Minecraft を用いた論理回路の授業実践と評価
- 山中 雪乃 国内外の点字図書館 Web サイトにおける閲覧補助機能の比較調査

田辺良則研究室

海外サッカーリーグの統計情報の収集と分析を行うシステムの構築 相原 伸哉
 Python を用いた画像処理によるパズル解答作成システムの開発 大富 貴之
 青空文庫を対象とした機械学習による文章分析手法の研究 家弓 柊人
 フリーマーケットサービスにおける商品情報を可視化する Web アプリケーションの作成 久保田 憂
 オンラインオープンキャンパスゲームの開発 倉知 陽
 形態素解析を利用した特徴分析に基づく著者判定機の作成 三浦 那知
 画像切り分け処理の自動化方式の研究 吉村 美月
 対戦用トレーディングカードにおけるテキスト量の時間変化分析 赤木 蓮
 リアルタイムアタック記録の統計的分析 土田 紘宣

小南理恵研究室

司書に求められる接遇の能力について 石川 葉汰
 今後の日本の公共図書館に求められる図書館設備：利用者の側面から 奥濱 七夏
 保護者による読書活動の実態 ～子どもへの期待とその影響～ 小幡 彩香
 公共図書館の障害者サービス ～品川区立図書館を対象に～ 片岡 愛莉
 公共図書館と多文化サービス：職員を中心に 黄 寶潔
 社会教育施設と複合する図書館における評価 齋藤 佳乃
 図書館の高齢者サービスの実態 佐々木碧唯
 大学図書館におけるサインシステム ―図書館職員の視点に着目して― 佐藤 丹音
 鶴見大学図書館における学生選書について 二木 咲耶

大矢一志研究室

レシピを表現する統一データ形式の研究 佐藤 彩乃





2022 年度 研究室紹介

田辺良則研究室

田辺研究室では、主に情報学を用いてシステム開発から統計分析まで、多種多様な研究に取り組むことができます。ゼミでは、週に一度1週間分の進捗をゼミ生と先生の前で報告します。毎週の報告に向けて研究を進めることによって、研究を計画的に進めることができるだけでなく、論文執筆時に報告書を参考に執筆することが出来ます。また、ゼミ生と先生から質問や意見をもらうことで、直面していた問題の解決方法や新しい視点などを得ることが出来ます。この1年間でプログラミング能力だけでなく、プレゼンテーション能力や問題解決能力を身に付けることができ、自身の成長に繋がりました。 [三浦那知]



元木章博研究室

元木研究室の特徴は「連帯感」です。卒業論文は自分だけの力で取り組むものではありません。もちろん、テーマや内容を決め、執筆するのは自分自身ですが、その過程で先生とミーティングを何度も行ったり、授業でゼミの仲間と相談したり、春夏2回ある合宿でOB・OGの先輩方から意見を貰ったりしながら進めていきます。今年度は3年ぶりに夏合宿を行うことができました。合宿では仲間や先輩方と交流をしたり、卒業論文について意見を貰うことができます。自分の考えだけではなく、他の人の考えを聞くことで卒業論文をより良いものにすることが出来ます。このように、ゼミの仲間や先輩方等のさまざまな視点からアドバイスをいただきながら卒業論文に取り組めるのが、元木研究室です。 [上原ひなた]

小南理恵研究室

小南研究室では図書館学に関するテーマを主として、公共図書館や大学図書館、高齢者サービス、障害者サービスなどを研究しました。各自の調査方法については、本学学生や学外を対象とした質問紙調査、公共図書館・大学図書館へのインタビュー調査、文献調査、インターネット調査などがありました。今年度の卒業論文演習は、前期は週に1回教室に集合し進捗報告し合い、後期は2週に1回の個別ゼミとして研究室で各自相談する形式でした。8月には1泊2日のゼミ合宿が実施され、論文発表やディスカッション、図書館の見学をしました。先生との対面やメールでの個別相談に加え、意見交換やアンケートの予備調査などのゼミ生同士での協力も執筆のために大切になると思います。 [奥濱七夏]





📍 角田裕之研究室

私たち角田ゼミの学生は、毎週金曜日に卒業論文の進み具合を報告し、角田先生や他のゼミ生からのアドバイスを参考にしながら完成させていきました。悩んでいることや分からないことがあっても、仲間同士で助け合い、より良い卒業論文を作り上げて行く事が出来たと思います。論文執筆時に必要なアンケート調査を行ったり、特に中間発表後の意見交換では、全員が意見を出し合い、仲間の論文の手助けをすることが出来ました。「ゼミに所属する」という良さがとても表れていたと思います。そして、角田先生からは楽しむことの大切さを教えて頂きました。研究が思うようにいかずに辛くなることがあっても、楽しむ気持ちが一番大切でした。私たちは角田ゼミに所属していたことを誇りに思います。社会人になってもこの経験を活かし、困っている時は迷わずに仲間に相談することと、何事も楽しむ気持ちを忘れずにたいです。 [見真地一希]

📍 河西由美子研究室

河西研究室では主に図書館情報学に関わる領域を研究分野としています。児童サービスや情報サービスに加え、特定分野の絵本作りなど授業で学んだことから身近なことから発展まで幅広いテーマを扱うことが可能です。コロナ禍が続く今年度は、状況によって対面とオンライン形式を使い分けて論文演習を行いました。演習では毎時間各自の進捗を報告しあい、情報共有を行ったり、先生にアドバイスを頂いたりすることで自らの研究に役立てていました。卒論は一年かけて執筆する大仕事です。バックアップをとりつつ提出まで頑張ってください！ [箴島彩恵]



📖 伊倉史人研究室

私たちのゼミでは、『女今川』や『料理物語』の本文の比較、金太郎を題材とした草双紙や巖谷小波と渋川版の『一寸法師』、堤中納言物語と漫画の『虫めづる姫君』のように受け継がれる中で変化した箇所と比較、『解体新書』の序文・自序の位置による分類等を行いました。貴重書の調査に神経を使いましたが、公開されている画像も多く使用し、どちらの場合でも一点一点細かく調査することを心掛けました。また判読の難しいくずし字を諦めずに正しく読むこと、本文や挿絵の異なる箇所を見落とさないことにも注力しました。調査の中では行き詰って悩むことも多々あり、提出後にはもう少し調査できたのではと悔いも残りましたが、各々の1年間の努力が実を結び安堵しています。 [深澤菜月]





2022 年度 新入生の声

前期を終えたところで、2022 年度の新入生に感想を聞いてみました

自己管理の必要性を学ぶ 1年 若林 築生

私が一年生前期で学んだことは、大学生活における自己管理能力の必要性だ。

私はこの四月から大学生になり、授業を自分で組むことや課題などの提出の催促の少ないことから、生活の自由度が上がったと思った。しかしそれは先に楽をして後から苦労をするか、先に苦労をした後に余裕を作るかの選択の自由だと言える。つまり総合的な労力は変わらないのだ。時間の管理ができるかどうか、それが大学生活全体での至上命題となっていると私は感じた。

友人との交流を楽しむことも、学問に全力で打ち込むこともこの大学生活が最後の時間であるのだから、大学生活を謳歌するということは、この両者をいかに両立させるかが、重要であると私は感じた。

以上が私が一年生前期で学んだことだ。

増えた自由な時間 1年 遠藤 愛海

大学生になって半年過ぎてみて、高校の頃よりも自由な時間が増えたと感じました。はじめは、土曜日に授業があることに驚いたり、通学時間が高校の頃の2倍になって、とても大変で通うだけでも大変だったのですが、真ん中の水曜日は授業を入れなかったので休日になったり、授業が1つしかない日があって「授業の後に何をしようか」など考えたり、寄り道をすることがとても楽しかったです。

入学したときに不安だった、友達ができるかということも、授業を受けたりしていく中でちゃんと作ることができたので良かったです。

夏休みの前のテスト勉強とレポート作成が想像していたよりも大変で、しっかり点を取って単位を落とさずに済むか不安ですが、これを乗り切れば1か月半というとても長い夏休みが来ると考えて、しっかり頑張ろうと思います。

後期は、前期で怠ってしまった復習をちゃんとしたり、提出課題はもっと早く提出できるようにしたいです。また、鶴見は大学に入ってから来るようになった場所なので、いろいろなところを回って、美味しいごはん屋さんや面白いところに行ってみたいと思います。

前期に学んだこと 1年 小松 愛

前期を振り返ってみると、あっという間だったなと感じた。

将来は、本に関わる仕事がしたいと思って鶴見大学に入学したのに、最初に当たった壁は、タイピングテスト。最初の二回で受からなくて補習でも四回挑戦したのにダメだったときはもう無理だと思ったけれど、「六号館おいでよ、練習しよう」と言ってくれた先生、「タイピングテスト、もう少しだね、頑張れ」と声をかけてくれた先生、一緒に練習してくれた友達がいてくれたおかげで何とか合格する事ができた。

そんな私が前期で学んだことは、授業の内容はもちろん、最後まで諦めないことと、人に頼っても良いということである。まだコロナは収束していないけれど、当たり前のように学校に行き、友達と学ぶ楽しさがこの先も続くといいなと思う。



新入生見学会

■ 神奈川県立歴史博物館・三溪園 ■

2023.4.16

新しい学びと出会い

1年
羽賀 朱音

私は、この3か月間新しい出会いと学びを得ることが出来た。この学科では、同じ目標を持つ友達が多く、すぐに仲良くなれた。大学は友達が多い方が良いというけれど、私は少数の友達で共に教え合い、助け合い貴重な時間を大事にしていきたいと考えている。

また、この学科は情報を自分たちで得る学科で、時間割や課題は毎回伝えられるわけではないので、自分でしっかり manaba（授業支援システム）を確認して次の授業内容を把握し、毎回授業に緊張感を持ってのぞむようにしている。

高校生時代と比べる所は、私の“時間の使い方”かもしれない。大学には空きコマがあり、また時間割を自分で作るのでアルバイトが両立しやすい。しかし一年次では必修が多いので、まだ自由な時間は少ないが、単位を落とさなければのちに自分の時間がたくさん取れるので、勉強を頑張ろうと思う。4年間貴学で学んだことが将来活かせるように、これからたくさんの情報を得て、自分の知らない世界を広げていこうと思う。

出土品や陶芸品・近代絵画などの作品や資料を見てどの作品もじっくりと見たくなるようなもので、時間が経っていくのが早くてゆっくり見れなかったのが悔しかったです。円覚寺の舍利殿を見た時、でっかくて、凄くなって思いました。 [野村知可]

三溪園は初めて来た場所だったのですが、木造建築の家だったり昔の雰囲気を楽しむことができたと思いました。昔の人達はあのような穏やかな場所で暮らしている人もいたんだと思ったのと、自分も1度三溪園のような穏やかな場所で過ごしてみたいと思いました。 [鈴木将太]

❖ フォトコンテストを開催 ❖

県立歴史博物館、三溪園で学生たちが撮影した写真の中から、投票により柴田吐愛さんの作品「光」が最優秀作品に選ばれました。



「光」 最優秀作品

柴田 吐愛

三溪園に行った当日は快晴で、川に光が反射していてとても綺麗でした。その輝きに目を惹かれ川の写真を撮りたいと思いました。カメラを向けると光の反射が綺麗に映り、自分が思っていたよりもはるかに幻想的な一枚が撮れたと思います。川に反射する光と、自然豊かな緑がバランス良く画角に落とし込みました。レンズに光の反射が上手く映ってくれたように思います。私にとっても思い出の一枚になりました。



新入生見学会：三溪園にて



授業紹介 [ドキュメント処理各論 II]

司書になった気持ちで

3年

小西 優大

学生企画展示のグループではリーダー役を務めました。テーマは「世界の神話」と決まり、サブテーマごとに担当者を決めました。メンバー同士で密に連絡を取り、ブックリスト、POP、ポスターを分担して作成しました。相互に報告、連絡、相談を強く意識して作業をしたため、大きな問題は起こらず、第一週目の展示当日を迎えました。私は書店でアルバイトをしているため、本の配置の仕方など、知識と経験を活かしました。サブテーマに選んだ日本・エジプト・ギリシャ・北欧の神話に関する本を全員で探し展示することは、協力して一つのものが目の前で出来上がるので非常に充実感がありました。展示の終了後に、PowerPoint で発表資料の作成に取り掛かりました。あらかじめ展示の様子を撮影しておきましたので、円滑に作成できました。司書になったつもりで本を選び、POP を作成し、どうすれば魅力的な展示になるのかとメンバー全員で考える楽しい時間でした。また、機会があればより素晴らしい展示を目指したいです。



数字に現れた工夫

3年

中村 淳之介

展示のテーマは日本文化とし、サブテーマに伝統芸能、和食、建築、サブカルチャーに決めた。利用者の関心の高いテーマでの貸出冊数は多いが、関心が低いテーマはかなり伸び悩む。利用者の関心が低いテーマの貸出数を増やしていくかが展示の上で課題と考えた。なぜなら、図書館内にどのような資料があるのかを周知させることと、各テーマへの関心度を高めて図書館の利用を増やすことがこの展示の最終的な目的であるからである。今回、私のチームの展示は、本を手にとってもらうという行動に繋がったという点では目的を達成したと思うが、まだまだ改善の余地はある。POP は作成したことがあったが、展示にまで携わったことはなかったのととても新鮮な気持ちで作業ができた。また、展示場所が図書館の1階奥の階段脇だったので動線については配慮を行い、利用者の目に留まるということを意識した。動線や視線誘導などいろいろな視点から工夫を行って見て、実際の数字に表れるということを認識できたので非常に実のある講義だった。



Book Review 高橋昌一郎『フォン・ノイマンの哲学 人間のフリをした悪魔』講談社・2021



タイトルが良くない。「ノイマン 乱世の時代を駆け抜けた天才」ではどうだろう。今ある科学技術の姿が確立したのは実は 1800 年代になつてのことで、まだ 100 年と少ししか経っていない。ちょうどノイマンが生まれた時代によく科学者は自信を持って科学的「真理」を信奉し始めていた。そして当時は、政治と戦争が世の中を動かしていた時代でもある。ノイマン 53 年の生涯は 2 つの世界大戦の時期と重なっている。明晰な頭脳で合理的判断に徹する姿が時に冷酷にも見え、悪魔とも揶揄された背景には、妥協で世間を混乱させる政治に対するノイマンなりの現実世界への反発であったとも思わせる。真理に仕える修道士としてノイマンを見ていると、この本から彼の人間的な面も見えてくるだろう。 (大矢一志)



教育実習を終えて

■ 生徒を見て話すことが大事

4年
倉知 陽

私は教員免許を取得するために、母校である私立トキワ松学園中学校高等学校にて、2週間の教育実習を行いました。残念ながら実際に生徒達の前に立って授業を行うことはありませんでしたが、様々な教科の授業を見学して多くのことを学ぶことができました。特に重要だと感じたことは、説明をしたときやプリントを配布したときには、生徒の反応をきちんと見聞きをすることです。指導案だけを見て授業の進行に精一杯になりがちですが、普段の会話と同じように、自分が話したら生徒を見ること、生徒という大人数の相手でも、きちんとしたコミュニケーションを行うことが大事であると、再確認できました。2週間という短い期間でしたが、今後の課題を発見することもでき、非常に充実した期間でした。

■ 多くを学んだ実習

4年
吉村 美月

私は情報科の高等学校の教員免許を取得するために、母校で2週間教育実習を行いました。授業は、ネットワークを使用したコミュニケーションや、情報やメディアの活用についての内容を行いました。大学の講義でも模擬授業や指導案を書く機会は何度かありましたが、実際に50分間の授業を行うことで、重要な内容がどこかわかるような抑揚を付けた話し方や、時間配分などを意識する必要があると実感しました。授業の最後に感想などを書いてもらっていたため、見学に来てくださった先生方だけではなく生徒たちからもたくさんのことを学ばせていただきました。授業以外でも生徒と関わる機会が何度かあり、とても貴重な経験でした。



コース選択

ドキュメンテーション学科では3年次に図書館学、書誌学、情報学コースのいずれかを選択します

■ 学校図書館と指導支援の関心があります [図書館学コース]

2年
岩切 晟政

私はこの2年間、学校図書館という機関そのものに対する知識や、その存在意義について学習してきた。学校図書館は授業で行われる指導の支援をするために資料を揃えること、それらを活用してもらうために教員との連携が重要な役割である。図書館の中でも唯一の「指導」という役割や、利用のされ方によって格差が生じているという課題などについても知った。

これまでの学習の反省点は、司書の仕事に対する認識が漠然としていたということである。司書の仕事を小、中、高等学校にある「図書委員」が行うようなことの延長程度にしか思えていなかった。実際に学習していくと、今まで見えていた直接サービスのほかに、あまり気が付かなかった間接サービスというものがあるということを知り、今では認識を改めることができた。

私が図書館学コースに進んだ時には、学校図書館と指導の関心に関心を深め、それらを最大限に活用できる司書教諭という役割について学んでいきたい

■ 学ネットワークの仕組みを学びたい [情報学コース]

2年
小川 真優

鶴見大学に入学する以前からIT関係の仕事に興味があり、授業ではプログラミングを中心に勉強したいと考えていた。

実際この二年間で私はプログラムを作る上で必要な単語を覚え、使い方を理解し、どのように組み込めば完成できるかを考えながら、データベースをまとめるSQLやWeb上でホームページを構成するHTML、データを表示するためのJavaScript、画面を装飾するためのcssを学んだ。また、インターネットを利用する上で使用しているPCはどこかの回線を通り、それらは安全なものなのかについても勉強した。

これから学びたいことは、ネットワークの仕組みを理解することだ。インターネットは世界中で使われており、欠かせないものである。しかし、不具合等で使えなくなってしまう時、社会は大混乱すると思う。そのような際に私自身が問題を解決し、同じ過ちを起こさないための対策をネットの仕組みや構造を考えながら勉強していきたい。



着任のご挨拶

未来の図書館の姿を
一緒に考えましょう

小南 理恵 [図書館学コース]



はじめまして、この4月より図書館学コースの授業を担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。

私は学生時代に司書課程で学ぶ中で、図書館を取り巻くあらゆる事象を対象とする図書館情報学の面白さに引き込まれ、現在に至ります。私はアメリカ公共図書館史を専門としており、これまでは冷戦下のアメリカにおいて、図書館員と出版関係者が人々の「読書の自由」にどのように関わってきたのかを研究してきました。今日、高い評価を受けている文学作品の中には、出版当時には政治的・道徳的理由から検閲の対象となったものも少なくありません。論争的な作品がこれまで読み継がれてきた背景には、読書文化を支えてきた図書館や出版社の奮闘があります。当時の図書館員たちが交わした手紙やメモから、彼らの信念や人間関係を垣間見ることができるのが、こうした歴史研究の面白い点です。

現在の図書館情報学は単に「図書館」そのものを対象とするだけではなく、人類が生み出してきた様々な知識や情報がどのように集められ、共有され、新たな知を生み出してきたのか明らかにするとともに、より良い形で「知の共有」のあり方を探る学問です。人類は古くから様々なメディアを通じて「読むこと」や「知ること」、そして「表現すること」を楽しんできました。現代の図書館はこうした人々の営みを支える社会的役割を担っています。とりわけ公共図書館は、人々が生涯にわたって読書を楽しみ、新しい知識を得て、自分の考えを深め、他者との交流の機会が得られる数少ない場所です。このような空間が維持されるためには、社会において自由な言論と自由な読書が保障されていることが必要不可欠です。日本では「図書館の自由に関する宣言」が図書館による自由な資料収集・保存・提供や利用者の秘密保持を謳っており、図書館員の職業倫理を支える理念として機能していますが、こうした理念を実現することは容易ではありません。

変化の激しい時代において、図書館は様々な変革を迫られています。図書館の抱える様々な課題について考えることは未来の図書館の姿を考えることでもあります。学生のみなさんと100年後、200年後の図書館はどのような姿をしているのか、ぜひ一緒に考えていきたいと思います。

ありふれた昔の本が
多くを教えてくれる

万波 寿子 [書誌学コース]



みなさん、こんにちは。この度本学科講師に奉職しました、万波寿子と申します。去年9月からの着任なので、新1年生の方以外はみんな私の先輩です。

京都から来ました。だからどうしてもしゃべりが関西弁です。加えて今まで地元で研究と子育て（小学生が2人）ばかりだったので、鶴見に来たら完全に浮いてしまうのではないかと心配し、着任前はお腹を下したりしていました。

ところが、いざ着任してみると、学生さん、職員さんの親切さに驚かされました。すれ違うときの挨拶は欠かさず、大学で教室を尋ねれば丁寧に教えてくれるばかりか、少し一緒に歩いてドアを開けてくれることも。率直に言って感動しました（ありがとうございます）。

さて、そんな鶴見大学の学生であるみなさんに聞いて頂きたいのは、みなさんは、「大学生である」という、一生に一度かも知れない特別なチャンスを手に入れていることです。大学は想像以上にあなたにとって可能性のある場所です。「自分を試せる場所」と言ってもいい。

大学で、「もう少し知りたいかも」「面白そうな人だな」「案外楽しい」etc. 自分の心が動いたとき、それをメモする、前より少し熱心に授業を受ける、興味を持った人に話しかけてみるなど、少しでも行動に移してみてください。何度か繰り返すと、大学は、積極的に応えてくれます。講義やサークル活動、知らない人との出会いなど、随所で新しい可能性をもたらしてくれます。そして、実はそれはそのまま、自分の未来を拓くことにつながります。

だから、大学4年間はぜひ、自分の気持ちを自由にして、行動してみてください。それに自分に正直であれば、大学では必ず信頼できる人に出会えます。

最後に、私の専門についてですが、日本の古い書物について研究する書誌学、とくに江戸時代に出版された仏教書を研究しています。仏教書というと難しい気がしますが、実は一番ありふれた本です。そもそも、日本は世界的にも稀なほど多くの本が残っている国ですが、その中で仏教書が最も数多いのです。つまり、最もありふれたものを研究しているだけなのです。講義では、このありふれた昔の本がいかに多くの大事なことを教えてくれるのかを、みなさんにお伝えしていきます。

No.20

【マルセイユ公共図書館アルカザル館〔マルセイユ、フランス〕】

Bibliothèques De Marseille Alcazar, Marseille, France

南仏の照りつける日差しが人々の気質をより一層開放させるのだろうか、欲望への忠実度を増した人々が行き交う大通りは、歩くだけで息苦しくなってしまう。そんな目貫通りの一角にショッピングモールと見間違えるような入り口の公共図書館がある。

入るとすぐにガタイの大きいセキュリティサービスマンに囲まれるが、笑顔は優しい。中は4階までの吹き抜けとガラス天井から差し込む光で明るく開放感がたっぷりある。壁は少なくあってもガラスの仕切りが多用され、書架なども中央の吹き抜けに向けて空間を開いているのでフロアのどこにいても開放感が味わえる。訪問した時には楽器演奏の版画が吹き抜けのホールで展示されていた。そういえばここでも楽譜は貸し出されていた。公共図書館に楽譜を置いたり音楽教室で演奏すると著作権料を徴収しにくる団体がある日本との差を痛々しく感じてしまう。



セキュリティがしっかりしているからだろうか、滞在する人々は安心して自分の仕事に集中しているのがよくわかる。館内を歩いていると自分は教会の中にいるのかと一瞬錯覚してしまった。警戒のなさが敬虔さに、真剣さが真摯さを思わせたのだろうか。確かに吹き抜けの光はスタンドグラスから漏れる光なのかもしれない。教会図書室が公共図書館へと変わった歴史を持つ土地

柄もあるのだろう。日本との差は大きい。

ただ、こんな素敵な空間は午後の13:00から18:00までしか開いていない。しかも週5日間のみ開いている。そんな貴重な時間だからみんな真剣だったのかもしれない。暑くうるさく空気も道も汚れた外の世界が嘘のようなこの空間は、旅行者にとっても貴重なオアシスであるけれども、もし立ち寄る際には絶対に痛めてはいけなと心してほしい。(大矢一志)



アクセス：マルセイユ観光の中心地 Vieux Port 近くのバスターミナルに近い路面電車の駅から見渡すと入口が見える。

開館時間：火曜 - 土曜：13:00-18:00 日曜・月曜：休館

アドレス：58 cours Belsunce, 13001 Marseille, France <https://www.bmvr.marseille.fr/>

❖ 鶴ヶ岡八幡宮・江ノ島水族館 [2022.9.13]

■ 新鮮な気持ちで訪れた鎌倉

2年
宍戸 愛美

神奈川県に住みながら、私は今まで鎌倉という地にあまり縁がありませんでした。そのため、今回の見学会をより新鮮な気持ちで迎えられたと思います。中でも特に印象深かったのは、最初に訪ねた鶴岡八幡宮です。当時放送されていた大河ドラマの影響もあり、看板に書かれた人物相関図や歴史的背景について理解を深めることができました。後に訪れた江ノ島水族館も含め、有意義な時を過ごすことができ嬉しく思っています。



鶴岡八幡宮



江ノ島水族館



神奈川県立図書館

❖ 神奈川県立図書館 [2023.2.7]

■ 利用者に寄り添った図書館

1年
森脇 萌楓

建てられたばかりの新しい図書館に行ったことがなかったので、ウキウキした気持ちで館内に入りました。学び、交流エリアでは椅子、机、ホワイトボードを自由に使うことができたり予約制でディスカッションルームや研究個室が使えるりと本を貸出するだけではなく利用する人に寄り添った図書館でとても素敵だなと思いました。公開されている書庫というのを見た事がなかったのですが、ボタン1つで棚を動かす事ができるのは新しい図書館ならではののかなと思いました。建物も陽の光が和らぐようにデザインされていて、細かい部分までこだわっているのが素敵だなと思いました。また軽食や文具、オリジナルグッズを販売するライブラリーショップがある図書館を見た事が無かったのでとても新鮮でした。

■ 静寂読書室で落ち着いて本を読みたい

1年
川村 莉央

神奈川県立図書館に新しくなってから初めて行きました。すごく広いわけではないけれど、ゆったりできるスペースは開放感があったり、本棚が天井までびっちり置いてあっても圧迫感が全くなかったです。本棚の中の黄色い枠で囲まれた「司書箱」と言われるスペースは、何冊か司書さんのセレクトで本が紹介されており、目に留まりました。司書箱でおすすめされている本が貸出中になっていたとしても、どんな表紙なのか分かりやすいように表紙の写真が貼られており、利用者にとって嬉しいことだなと思いました。図書館の外観のデザインが旧本館のデザインを受け継いでおり、図書館に太陽の光が入りすぎないように考えられているんだなと感じました。私が一番利用したいと思ったのは静かに読書したい人専用の部屋です。本を読むことがすごく好きで、落ち着いて静かに読みたいときもあるので、そんな時利用しに行きたいです。これから先、前川國男記念館がオープンして図書館のサービスももっと広がると聞いたので、行きたいと思います。

☐ 「ドキュメンテーション」第31号をお届けします。16期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。

☐ 感染症の蔓延する状況を、皆さんは知恵と工夫で乗り越えて来ました。この敬遠は今後の人生に多に役立つことでしょう。

ドキュメンテーション 第31号 令和5（2023）年3月14日（火）

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 ☎ 045(581)1001 発行責任者：元木章博

学科ホームページ：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/ 学科ブログ：http://blog.tsurumi-u.ac.jp/docu/